

平成28年1月15日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 埼玉県教育委員会

所 在 地 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

代表者職氏名 教育長 関根 郁夫

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

平成27年6月24日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名

ふりがな	さいたまけんりつこうのすじょしこうとうがっこう	ふりがな	いしかわ かおる
学校名	埼玉県立鴻巣女子高等学校	校長名	石川 薫
ふりがな	こうのすしりつかわさとちゅうがっこう	ふりがな	せきね しげお
学校名	鴻巣市立川里中学校	校長名	関根 茂夫
ふりがな	こうのすしりつくすしょうがっこう	ふりがな	ささお とおる
学校名	鴻巣市立屈巣小学校	校長名	笹尾 徹
ふりがな	こうのすしりつきょうわしょうがっこう	ふりがな	はせがわ ひろし
学校名	鴻巣市立共和小学校	校長名	長谷川 洋
ふりがな	こうのすしりつひろだしょうがっこう	ふりがな	たべい やすひろ
学校名	鴻巣市立広田小学校	学校名	田部井 康弘

3. 研究内容（県の取組） ※ 各強化地域拠点の取組は「別紙」を添付

(1) 研究開発課題

小学校で英語教育が早期化・教科化された場合の英語教育の在り方の検証

【課題①】教育課程の研究開発

【課題②】指導と評価の研究及び指導体制の整備

【課題③】新たな指導用教材及び研修用資料の整備

(2) 研究の概要

①教育課程の研究開発

- ・ 小学校中学年で活動型（週 1 コマ）、高学年で教科型（週 3 コマ）の英語教育を実施するための教育課程を編成
- ・ 小学校での成果を踏まえ、より高度な内容を実施するための中学校の教育課程の編成

②指導と評価の研究及び指導体制の整備

- ・ 小・中・高等学校を通じた系統的な学習到達目標の設定
- ・ 学習到達目標を達成するための効果的な指導と適切な評価方法に関する研究
- ・ 専科教員、加配教員、英語教育推進リーダー、ALT等を活用した指導体制の整備及び研修の充実

③新たな指導用教材・研修用資料の整備

- ・ 小学校第3・4学年で使用する「Hi, friends!」を補助する教材、第5・6学年の英語で使用する教材、より高度化を目指す中学校英語授業で使用する補助教材等の研究開発
- ・ 各強化地域拠点の伝統文化・歴史等をテーマとした、郷土に誇りを持ち発信できる教材の作成
- ・ 授業の記録映像を活用した研修用映像資料の作成等、研修用資料の整備

(3) 現状の分析と仮説等 ※ 各強化地域拠点の実施計画書「別紙」に記載

(4) 研究開発型 ※ 各強化地域拠点の実施計画書「別紙」に記載

(5) 研究計画 ※ 各強化地域拠点の実施計画書「別紙」に記載

(6) 評価計画 ※ 各強化地域拠点の実施計画書「別紙」に記載

(2) 運営指導委員会

①活動計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> 運営指導委員会事務局（義務教育指導課・高校教育指導課）で目的・方針等の確認 第1回運営指導委員会（研究の目的・方針等の確認・共通理解、運営指導委員の委嘱）
5～6月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回担当者連絡協議会 強化地域拠点運営指導委員会 運営指導委員の各強化地域拠点への訪問
8月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回担当者連絡協議会
9～2月	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開及び研究協議会（各強化地域拠点で、二年次以降） 〔二・三年次は中間発表会、四年次は研究成果発表会〕 運営指導委員の各強化地域拠点への訪問
10月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回運営指導委員会（進捗状況の確認、今後の計画について）
12月	<ul style="list-style-type: none"> 第3回担当者連絡協議会
1～2月	<ul style="list-style-type: none"> 第3回運営指導委員会（中間報告、成果物等についての情報交換、次年度の取組方針についての協議等）
3～4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の普及（HP等）

5. 年間事業計画 ※ 「強化地域拠点の取組」は各強化地域拠点の実施計画書に記述

月	強化地域拠点の取組（県の取組）	運営指導委員会
4月	○研究の目的・方針等の確認（事務局内）	○事務局会議
5月		
6月	○各強化拠点地域の運営指導委員会への参加 ○授業研究会等への参加及び指導助言	
7月		
8月	○第2回担当者連絡協議会 ○研究の進捗状況の確認（事務局内）	○第2回担当者連絡協議会 ○事務局会議
9月	○第1回運営指導委員会（9月3日（木）大宮ソニックシティ） ・ 進捗状況の確認等 ○授業公開及び研究協議会〔中間発表会〕（各強化地域拠点） ○運営指導委員の各強化地域拠点への訪問	○第1回県運営指導委員会
10月	○運営指導委員の各強化地域拠点への訪問	
11月	○運営指導委員の各強化地域拠点への訪問	
12月	○第3回担当者連絡協議会 ○研究の進捗状況の確認（事務局内）	○第3回担当者連絡協議会 ○事務局会議
1月		

2月	○第2回運営指導委員会 (2月2日 ホテルブリランテ武蔵野) <ul style="list-style-type: none">・ 中間報告・ 成果物についての情報交換・ 次年度の取組方針についての協議等	○第2回県運営指導委員会
3月	○研究成果の普及 (HP等)	
【その他の取組】※あれば記入		

(別紙1) 【強化地域拠点の取組】

1. 事業の実施期間

平成27年6月24日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	さいたまけんりつこうのすじょしこうとうがっこう	ふりがな	いしかわ かおる
学校名	埼玉県立鴻巣女子高等学校	校長名	石川 薫
ふりがな	こうのすしりつかわさとちゅうがっこう	ふりがな	せきね しげお
学校名	鴻巣市立川里中学校	校長名	関根 茂夫
ふりがな	こうのすしりつくすしょうがっこう	ふりがな	ささお とおる
学校名	鴻巣市立屈巢小学校	校長名	笹尾 徹
ふりがな	こうのすしりつきょうわしょうがっこう	ふりがな	はせがわ ひろし
学校名	鴻巣市立共和小学校	校長名	長谷川 洋
ふりがな	こうのすしりつ ひろだ しょうがっこう	ふりがな	たべい やすひろ
学校名	鴻巣市立広田小学校	校長名	田部井 康弘

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

小学校で英語教育が早期化・教科化された場合の英語教育の在り方の検証

【課題①】教育課程の研究開発

【課題②】指導と評価の研究及び指導体制の整備

【課題③】新たな指導用教材及び研修用資料の整備

(2) 研究の概要

①教育課程の研究開発

- ・ 小学校中学年で活動型(週1コマ)、高学年で教科型(週3コマ)の英語教育を実施するための教育課程を編成
- ・ 小学校での成果を踏まえ、より高度な内容を実施するための中学校の教育課程の編成

②指導と評価の研究及び指導体制の整備

- ・ 小・中・高等学校を通じた系統的な学習到達目標の設定
- ・ 学習到達目標を達成するための効果的な指導と適切な評価方法に関する研究
- ・ 専科教員、加配教員、英語教育推進リーダー、ALT等を活用した指導体制の整備及び研修の充実

③新たな指導用教材・研修用資料の整備

- ・ 小学校第3・4学年で使用する「Hi, friends!」を補助する教材、第5・6学年の英語で使用する教材、より高度化を目指す中学校英語授業で使用する補助教材等の研究開発
- ・ 「花と人形のまち 鴻巣」をテーマとした郷土に誇りを持ち発信できる教材の作成

- ・ 授業の記録映像を活用した研修用映像資料の作成等、研修用資料の整備

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

ア 現状の分析

小学校では、各学年、英語を使ったコミュニケーションの楽しさを味わわせる体験を基本とし、主に中学年及び高学年では「聞く」「話す」を中心とした活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、コミュニケーション能力の素地を養うことができた。今後は、教科化に向けて、基本的なコミュニケーション活動から徐々に、「読む」「書く」ことを意識した学習内容を検討することが必要である。また、指導の効果を高め、想像力を求めた学習を行うために、具体的かつ多くの使用が期待される場面を設定し、基本表現を大切に教材開発と指導内容を整理する。そのためにも小学校3年から中学校3年までの系統的な学習到達目標を見直し、小学校での取組や児童の実態に適した音声・文字の指導を行う。また、基本的な表現の定着と英語運用能力が身に付いていることを前提に、中学校ではより高度な内容を実施する教育課程を編成していく。これまでに、生徒の英語運用能力の向上を図り、英語教育の内容の高度化を目指して、1単位時間における英語使用率を、教員は75%以上、生徒は50%以上を今後も目標とする。また、先進校の授業や資料を十分に生かすことができなかったため、今後は、教員研修等で客観的に授業を観察・分析し、授業力向上を目指す。

授業研究会で小・中・高の教職員が互いに授業を見合うことで、相互に指導方法を協議することができた。今年度は特に高等学校での授業研究会を積極的に取り組んでいく。

イ 研究の目的

小中一貫教育の研究成果を生かし、小学校での教科化を見据え、教育課程の編成と実践を行い実証的資料の収集を行うとともに、指導と評価の研究、指導体制の整備、新たな指導用教材・研修用資料の整備を推進し、次期学習指導要領改訂にも資する研究を行うことを目的とする。

②研究仮説

ア 研究仮説

小学校第3学年から中学校第3学年まで一貫した英語教育の教育課程を開発し、適切な実施に係る指導と評価や指導体制の整備、指導用教材・研修資料に関する実践研究に取り組むことで、小学校で英語教育が早期化・教科化された場合の具体的な成果や課題といった実証的資料を得ることができる。

イ 具体的な手立てと期待される成果

【課題① 教育課程の研究開発】に関して

(ア) 小学校の教育課程の編成

[手立て]・ 中学年では、活動型（週1コマ）を実施する。当該学年の総合的な学習の時間を年間35時間削減する。

- ・ 高学年では、教科型（週3コマ）を実施する。当該学年の外国語活動、総合的な学習の時間をそれぞれ年間35時間削減する。

(※ 週1コマは、モジュール授業を活用する。)

- ・ 指導内容については、各学年、英語を使ったコミュニケーションの楽しさを味わわせる体験を基本とし、中学年では「聞く」「話す」を中心とした活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、コミュニケーション能力の素地を養うものとし、高学年では「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を通じて、初歩的な英語の運用能力を養うことを目的とした内容を扱うものとする。

[成果]・ 上記の教育課程編成基準を実施した際の実証的資料を得ることができる。

- ・ 英語の音声や基本的な表現の定着、運用能力の向上が図られ、中学校での英語教育への接続が円滑になる。

(イ) 中学校の教育課程の編成

[手立て]・ 小学校での取組や児童の実態を把握し、小学校段階で、音声・文字ともに基本的な表現の定着と英語運用能力が身に付いていることを前提に、より高度な内容を実施する教育課程を編成する。

[成果]・ 上記教育課程編成基準を実施した際の実証的資料を得ることができる。

- ・ 生徒の英語運用能力の向上が図られ、高等学校以上での英語教育の内容の高度化が図られる。

【課題② 指導と評価の研究及び指導体制の整備】に関して

(ア) 系統的な学習到達目標の設定

[手立て]・ 小・中・高等学校及び児童生徒の実態を把握し、系統的な学習到達目標を設定する。

- ・ 小学校での英語教育の早期化・教科化に応じ、中・高等学校においては、より高度な学習到達目標を設定する。
- ・ 児童生徒の実態を把握し、設定した学習到達目標の妥当性、系統性、連続性等を検証し、改善を図る。

[成果]・ 学習到達目標のモデルを提示し、その活用の効果に関する実証的資料を得ることができる。

- ・ 学習到達目標を明確にすることで、系統的な指導が着実に実施できる。

(イ) 学習到達目標を達成するための効果的な指導と評価の在り方の研究

[手立て] (小学校中学年)

- ・ 音声によるコミュニケーション活動を中心に、また現在の高学年における外国語活動を基本として、児童の発達段階に合わせた活動を工夫する。
- ・ 児童の身近な話題や場面を取り上げて指導する。
- ・ 児童のコミュニケーション活動の様子を観察・分析し、児童の伸びやがんばりを具体的にとらえ、形成的評価として活用しながら、学習到達目標の達成度を把握する。

(小学校高学年)

- ・ 第5学年当初から段階的に文字を導入し、第6学年末に向けて「読むこと」「書くこと」の活動を増やす。
- ・ 「読むこと」「書くこと」に対する意欲の向上や、文字を用いたコミュニケーションの楽しさを体験できる指導の研究に取り組む。

- ・ 学習到達目標に正対したコミュニケーション活動を設定し、児童の身近な話題を取上げ、言語の働き・使用場面を意識して指導する。
- ・ 児童のコミュニケーション活動の状況観察や発表・作品等の分析等の結果を形成的評価として活用し、児童の学習到達目標の達成を支援する。
- ・ 評価は、中学年における評価と同様の取組に加え、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の英語運用能力を把握する調査等を活用する。

(中学校)

- ・ 「英語の授業は英語で行うこと」を基本方針として、教員・生徒の授業における英語使用率を年次ごとに目標を設定して推進する。
- ・ スピーチ等の活動を継続的に設定し、繰り返し活用させる中で、言語材料の定着と英語運用能力を向上させる。
- ・ パフォーマンステスト（スピーチ、英語を用いた活動等）の研究に取り組み、生徒の学習到達目標の達成度を把握する。

(高等学校)

- ・ 中学校の実態を踏まえ、より高度な学習到達目標を設定する。
(CAN-DOリストの設定と更新)
- ・ スピーチ、ディスカッション等の言語活動の実施回数を増加する。

- [成果]
- ・ 小・中・高等学校を通して、より高度な英語教育を実施する際の指導方法と評価方法のモデルを提示することができる。
 - ・ 教員・児童生徒等が各自の学習到達状況を把握しながらコミュニケーション能力を着実に向上することができる。

(ウ) 指導体制の整備・研修の充実

- [手立て]
- ・ 小学校において、専科教員、加配教員、英語教育推進リーダー、ALT等を活用して、児童生徒への指導を充実させる。
 - ・ 校内研修組織を充実させ、指導方法・評価方法・教材の共有等を行う。
 - ・ 英語教育推進リーダー養成研修修了教員や専科教員、ALT、外部人材等を活用した教員研修会を実施する。
- [成果]
- ・ 適切な指導体制や研修等の基準に関する実証的資料を得ることができる。
 - ・ 教員の指導力が向上する。

【課題③ 新たな指導用教材及び研修用資料の整備】に関して

(ア) 指導用教材の整備

- [手立て]
- ・ 小学校中学年では、基本教材である「Hi, friends!」を補助する、児童の発達の段階に応じた教材を整備する。
 - ・ 小学校高学年では、先行研究・実践を参考に、強化地域拠点の実態に合わせた教材を整備する。二年次以降は、文部科学省が作成する教材も活用し、その有用性に関する調査研究を行う。
 - ・ 中学校では、小学校での成果を踏まえ、より高度で充実した内容について指導するための補助教材等の研究開発に取り組む。
 - ・ 小学校3学年から中学校第3学年まで、「花と人形のまち 鴻巣」をテーマとし

た教材を作成する。「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の活動に対応できるよう計画する。

- 〔成果〕・次期学習指導要領改訂の際の教材に関する実証的資料を提供できる。
- ・小学校の活動型・教科型の英語教育、中学校の英語の授業が、より高度な内容を伴って継続的に実施できる。

(イ) 研修用資料の整備

- 〔手立て〕・授業を映像収録し、研修用資料として活用する。
- ・効果的な指導実践を、研修用資料として整理し、教員研修等で活用する。

- 〔成果〕・小学校で英語教育が早期化・教科化され、中学校英語教育の高度化に対応した適切な研修資料に関する実証的資料が得られる。
- ・教員が客観的に授業を観察・分析できるようになり、授業力が向上する。

【その他 小学校で早期化・教科化され、より高度な内容の英語教育を受けた児童生徒の英語運用能力等の向上に関して】

- 〔手立て〕・「③イ 評価方法・資料」の内、児童生徒に関する資料を用いて、平成26年度の中学校第3学年の生徒の結果と平成29年度の中学校第3学年の生徒の結果を比較・分析する。

- 〔成果〕・小学校で早期化・教科化され、より高度な内容の英語教育を受けた児童生徒と現行学習指導要領で英語教育を受けた児童生徒の英語運用能力等の変容に関する実証的資料を得ることができる。

③研究成果の評価方法

ア 評価の実施者 ※「4. 研究組織」参照

- (ア) 「英語教育強化推進委員会」(研究評価の実施主体)
- (イ) 「小中一貫教育連絡協議会」(「英語教育強化推進委員会」の研究評価結果について、協議し、必要に応じて研究に関する指導助言を行う。)

イ 評価方法・資料

各研究課題に対して、次に示す資料を分析し、評価する。

【課題① 教育課程の研究開発】に関して

- ・小学校教育課程表・授業実施実績表
- ・年間指導計画(小・中学校)
- ・アンケート等意識調査(対象:教職員、保護者)

【課題② 指導と評価の研究及び指導体制の整備】に関して

- ・学習到達目標一覧表(小・中・高等学校)
- ・アンケート等意識調査(対象:児童生徒、教職員)
- ・埼玉県英語教育研究会作成の調査等
- ・パフォーマンステスト(「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」)
- ・映像による授業分析
- ・児童生徒の発表や学習成果物
- ・研修の実施回数・内容・参加者数

【課題③ 新たな指導用教材及び研修用資料の整備】 に関して

- ・ アンケート等意識調査（対象：児童生徒、教職員）
- ・ 学校・市教委で収集した指導用教材等
- ・ 研修等で使用した映像資料等

(4) 研究開発型 ※平成27年度新規採択件については、平成26年度は斜線を引くこと。

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第3学年1コマ 第4学年1コマ	第3学年1コマ 第4学年1コマ	第3学年1コマ 第4学年1コマ	第3学年1コマ 第4学年1コマ
②小学校 教科型		第5学年1コマ 第6学年1コマ	第5学年2コマ 第6学年2コマ	第5学年3コマ 第6学年3コマ

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

第一年次～第四年次、校種別

一年次

①全体の取組

- ア 研究組織の発足と研究方針、取組内容等に関する共通理解
- イ 研修会の実施（2回程度）
- ウ 先進地区視察研修（2名）その成果の普及
- エ 加配教員の英語教育推進リーダー研修への派遣と研修での活用
- オ 研究評価に係る諸調査の実施・分析
- カ 一年次の研究成果の評価と二年次の研究計画への反映（研究計画の修正）

②校種別の取組

ア 小学校

【課題①】 に関する取組

- ・ 中学年で週1コマの活動型の授業を実施
- ・ 高学年における週1コマの教科型の授業を実施するための教育課程の研究・編成

【課題②】 に関する取組

- ・ 学習到達目標設定のための研究・試案の作成
- ・ 学習到達目標の達成状況を把握するための評価方法の研究
- ・ 「Hi, friends!」の中学年で指導方法に関する研究
- ・ 中学年で音声によるコミュニケーション活動、高学年での「読むこと」「書くこと」を含むコミュニケーション活動の作成と指導方法の研究
- ・ 活動型、教科型それぞれにおける適切な評価方法の研究

【課題③】 に関する取組

- ・ 中学年で「Hi, friends!」を補助する指導用教材、高学年の教科型用の指導用教材の資料収集と研究開発
- ・ 「花と人形のまち 鴻巣」をテーマとする指導用教材の研究開発

イ 中学校

【課題①】に関する取組

- ・ より高度化した英語の教育課程の研究・編成
- ・ 高等学校の英語授業の参観・研究協議

【課題②】に関する取組

- ・ 「CAN-DOリスト」の形式での学習到達目標設定のための研究・試案の作成
- ・ 学習到達目標の達成状況を把握するための評価方法（パフォーマンステスト等）の研究
- ・ スピーチ、プレゼンテーション等の継続的な実施
- ・ 学習到達目標との整合性のある評価規準の整理
- ・ 教員の1単位時間における英語使用率を75%以上、生徒が英語を使用して活動する時間が1単位時間に占める割合を50%以上に設定

【課題③】に関する取組

- ・ スピーチ、プレゼンテーション等より高度な内容を継続的に実施するための指導用教材の研究開発
- ・ 「花と人形のまち 鴻巣」をテーマとする指導用教材の研究開発

ウ 高等学校

- ・ 中学校の英語授業の参観・研究協議
- ・ 中学校の教育課程編成への参画

二年次

◎ 一年次の研究成果を踏まえ、修正・改善を加えた取組を行う。

①全体の取組

ア 研究組織の改善と研究方針、取組内容等に関する共通理解

イ～エ 一年次に同じ

オ 研究評価に係る諸調査の実施・分析

※ 一年次の児童生徒の結果と二年次の当該学年の児童生徒の結果を比較・分析する。

〔例〕H26年度の中3生徒の数値とH27年度の中3生徒の数値を比較・分析

カ 二年次の研究成果の評価と三年次の研究計画への反映（研究計画の修正）

キ 研究発表会の実施

②校種別の取組

ア 小学校

【課題①】に関する取組

- ・ 中学年で週1コマの活動型の授業を実施
- ・ 高学年で週1コマの教科型の授業を実施

【課題②】に関する取組 一年次に同じ

【課題③】に関する取組 一年次の取組に加えて次に取り組む。

- ・ 高学年における文部科学省が作成する教材の実践的検証

イ 中学校

【課題①】に関する取組 一年次に同じ

【課題②】に関する取組 一年次の取組に加えて次に取り組む。

- ・ 「CAN-DOリスト」の形式での学習到達目標設定と授業改善の研究

【課題③】に関する取組 一年次に同じ

ウ 高等学校 一年次の取組に加えて次に取り組む。

- ・ 中学校の実態を踏まえたより高度な、学習到達目標の設定及び年間指導計画の見直し
- ・ 「CAN-DOリスト」の作成。
- ・ スピーチ、ディスカッション等の言語活動の実施回数の増加

三年次

◎ 二年次の研究成果を踏まえ、修正・改善を加えた取組を行う。

◎ 四年次の研究のまとめに向け、取組の検証に重点をおいた取組を行う。

①全体の取組 二年次の取組に加えて次に取り組む。

オ 研究評価に係る諸調査の実施・分析

- ※ 児童生徒等の変容の要因の特定に関する研究

②校種別の取組

ア 小学校

【課題①】に関する取組

- ・ 中学年で週1コマの活動型の授業を実施
- ・ 高学年で週2コマの教科型の授業を実施

【課題②③】に関する取組 二年次に同じ

イ 中学校 二年次の取組に加えて次に取り組む。

【課題②】に関する取組

- ・ 「CAN-DOリスト」の形式での学習到達目標設定に対応したパフォーマンステスト等の実施計画の作成

ウ 高等学校 二年次の取組に加えて次に取り組む。

【課題③】に関する取組

- ・ 「CAN-DOリスト」の改善。

四年次

◎ 三年次の研究成果を踏まえ、修正・改善を加えた取組を行う。

◎ 三年次の検証結果の妥当性の確認を行う。

◎ 四年間の研究のまとめを行い、研究成果の普及に取り組む。

①全体の取組 三年次の取組に加えて次に取り組む。

オ 研究評価に係る諸調査の実施・分析

- ※ H26年度中学校第2・3学年生徒の結果とH29年度中学校第2・3学年の結果を重点的に比較・分析する。

②校種別の取組

ア 小学校

【課題①】に関する取組

- ・ 中学年で週1コマの活動型の授業を実施

- ・ 高学年で週3コマの教科型の授業を実施
【課題②③】に関する取組 三年次に同じ

イ 中学校 三年次に同じ

ウ 高等学校 三年次に同じ

○平成27年度の進捗状況・課題

- ・ 研究2年目の平成27年度は、これまで4回の授業研究会と各学校における校内研修会の成果が、授業力の向上につながっている。授業での英語の使用や展開において定着が図られ、児童の意欲・関心がさらに高まった。
- ・ 評価項目の精選、28年度以降の授業時数のコマの検討が急務である。
12月現在、最新の情報では教科化スタート時の授業数が1コマ+モジュール（短時間学習）である。鴻巣市ではモジュールに関する研究を行っていないため、早い対応が必要であるとする。従って平成28年度は当初の2コマから1コマ+モジュール（短時間学習）への変更を検討中である。短時間の取り方は10分から15分程度とし、各学校の現状を考慮する必要がある。

(6)評価計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

第一年次～第四年次、校種別

◎資料の収集・分析は、年間を通じて随時実施する。

◎3学期に「英語教育強化推進委員会」が評価結果をまとめ、「英語教育強化推進運営指導委員会」等に報告する。

◎「英語教育強化推進運営指導委員会」は、「英語教育強化推進委員会」の研究評価結果について、協議し、必要に応じて研究に関する指導助言を行う。

一年次

ア 小学校

【課題①】に関して

- ・ 小学校教育課程表・授業実施実績表の分析
- ・ 年間指導計画の分析
- ・ アンケート等意識調査（対象：教職員、保護者 実施回数：3回）

【課題②】に関して

- ・ アンケート等意識調査（対象：児童生徒、教職員 実施回数：3回）
- ・ 映像による授業分析
- ・ 児童の発表や学習成果物の分析
- ・ 研修の実施回数・内容・参加者数の分析

【課題③】に関して

- ・ アンケート等意識調査（対象：児童生徒、教職員 実施回数：3回）
- ・ 学校・市教委で収集した指導用教材等の質・量の分析
- ・ 研修で使用した映像資料等の質・量の分析

イ 中学校

【課題①】に関して

- ・ 年間指導計画の分析
- ・ アンケート等意識調査（対象：教職員、保護者 実施回数：3回）

【課題②】

- ・ 学習到達目標一覧表と目標到達度の分析
- ・ アンケート等意識調査（対象：教職員、保護者 実施回数：3回）
- ・ 埼玉県英語教育研究会作成の調査等の結果分析
- ・ パフォーマンステスト（「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）の結果分析
- ・ 映像による授業分析
- ・ 生徒の発表や学習成果物の分析
- ・ 研修の実施回数・内容・参加者数の分析

【課題③】に関して

- ・ アンケート等意識調査（対象：生徒、教職員 実施回数：3回）
- ・ 学校・市教委で収集した指導用教材等の質・量の分析
- ・ 研修で使用した映像資料等の質・量の分析

ウ 高等学校

- ・ 諸会議、公開授業等への参加状況により評価する。
- ・ 年間指導計画の見直し（系統性を生かす）及び「CAN-DOリスト」の作成。

三年次

ア 小学校

【課題①】に関して 一年次に同じ

【課題②】に関して 一年次の取組に加え次に取り組む。

- ・ 学習到達目標一覧表と目標到達度の分析
- ・ 高学年におけるパフォーマンステスト（「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）の結果分析

【課題③】に関して 一年次の取組に加えて次に取り組む。

- ・ 高学年における文部科学省が作成する教材の実践的検証

イ 中学校 一年次に同じ

ウ 高等学校 一年次に同じ

三年次

◎四年次の研究のまとめに向け、研究実践と成果の因果関係の特定に重点をおく。

ア 小学校 二年次に同じ

イ 中学校 二年次に同じ

ウ 高等学校 二年次に同じ

四年次

◎三年次の検証結果の妥当性の確認に重点をおく。

◎平成26年度の中学校第2・3学年の生徒の結果と平成29年度の中学校第2・3学年の生徒の結果を比較・分析する。

ア 小学校 三年次に同じ

イ 中学校 三年次に同じ

ウ 高等学校 三年次に同じ

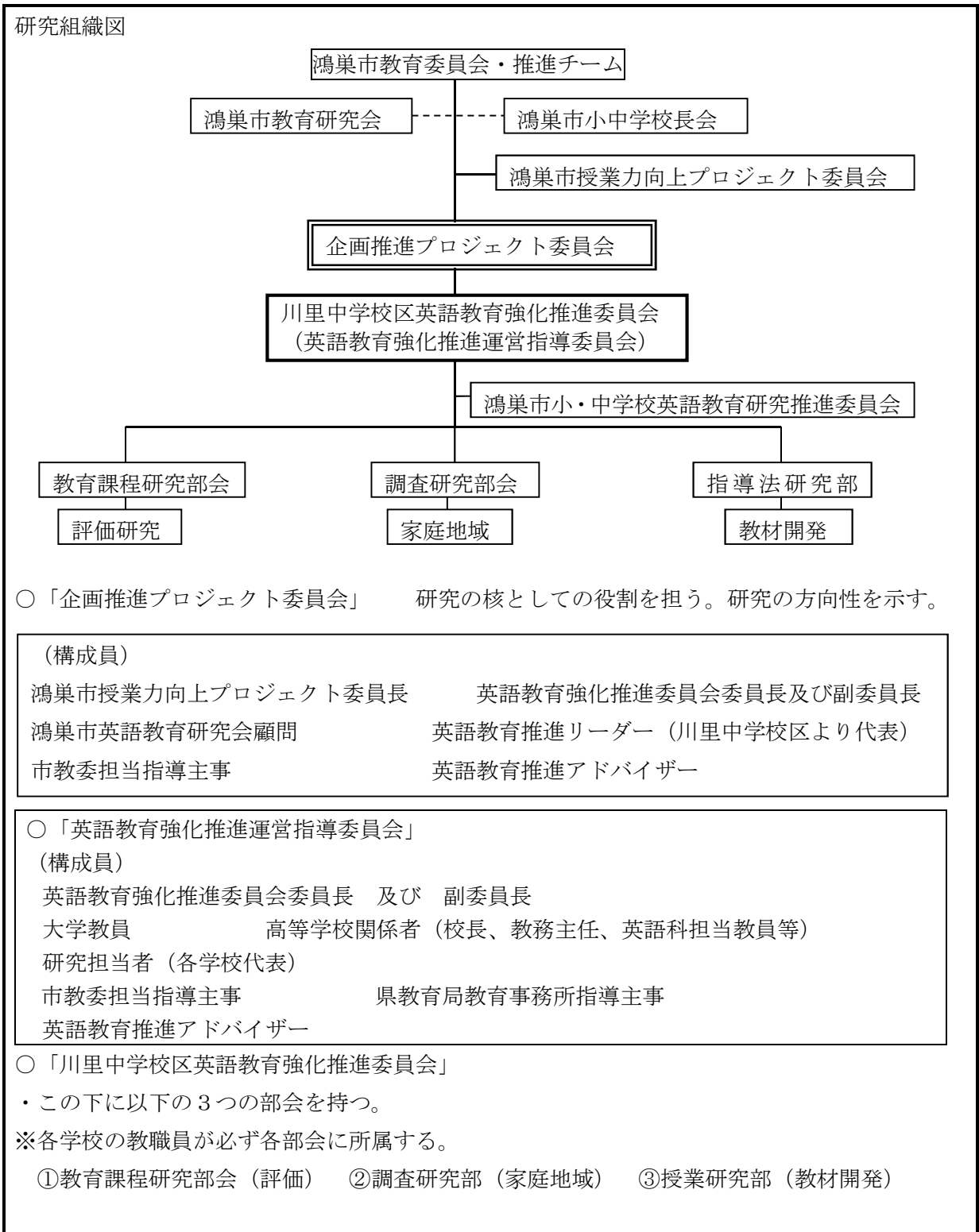
○平成27年度の進捗状況・課題

小学校高学年（5年、6年）において教科化となり、川里中学校区3小学校では観点別評価を実施している。

そのための評価テスト、パフォーマンステスト、授業中の観察など、授業の充実が図れるよう研究を深めている。

研究組織

(1) 研究組織の概要



(2) 運営指導委員会

①活動計画

<p>(1)「企画推進プロジェクト委員会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間延べ6～8回程度実施 ・ 研究の核としての役割を担う。研究の方向性を示す。 <p>(2)「英語教育強化推進委員会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「英語教育強化推進運営指導委員会」を兼ねる。(年間3回程度) ・ 年間延べ20回程度実施(原則として毎月第1、3火曜日の放課後に行う。) <p>①教育課程研究部会 (評価研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9年間を見通した課題となる教育課程の作成 ・ 年間指導計画・学習到達度目標の設定 ・ CAN DO リスト作成 ・ 研究評価の資料作成 <p>②調査研究部 (家庭地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸調査の作成・統計・検証 ・ 研修の企画・運営、研修用資料の作成 ・ 家庭・地域への情報発信と協力依頼 <p>③指導法研究部 (教材開発)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「英語学習のルール集」の作成と実施の徹底等 ・ 教材の研究開発 ・ 授業づくり、授業研究会の検証 <p>○平成27年度の進捗状況・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初の計画に基づき、英語教育強化推進委員会、授業研究会を実施している。 ・ モジュール(短時間学習)の研究が必要である。今後の研究計画を検討中である。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<p>○小中一貫教育推進校長会(月1回程度)</p> <p>◎4/27 平成27年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」に関する説明会(文部科学省)</p> <p>○4/30 第1回英語教育強化推進委員会(屈巢小)</p> <p>(※毎月第1、3火曜日、年間延べ20回程度を予定)</p>	
5月	<p>○5/20 第2回英語教育強化推進委員会(屈巢小)</p> <p>○第1回教職員合同研修会</p> <p>○小中一貫教育推進校長会(月1回程度)</p> <p>○「インタビュー調査」「音読・筆記調査」実施(小・中)</p>	
6月	<p>◎6/3 第1回授業研究会</p> <p>○6/15 第3回英語教育強化推進委員会(第二庁舎)</p> <p>○第1回3小学校6年生合同学習会</p> <p>○第1回小中一貫教育連絡協議会</p> <p>○3小学校学年交流学習会(小3・4)</p> <p>6/29 鹿児島県伊佐市より学校視察(広田小)⑤</p>	

7月	<p>7/1 鹿児島県伊佐市より学校視察（共和小）②③④</p> <p>○7/14 第4回英語教育強化推進委員会（広田小）</p> <p>○小中一貫教育推進校長会（月1回程度）</p> <p>○3小学校合同林間学校事前練習</p> <p>○意識調査（児童生徒、教職員、保護者）</p> <p>○7/28 第5回英語教育強化推進委員会（屈巢小）※担当者3名</p>	
8月	<p>○8/4 第1回教職員合同研修会（各小学校）</p> <p>○8/21 第2回教職員合同研修会兼第6回英語教育強化推進委員会（農業研修センター）</p> <p>○小中一貫教育推進校長会（月1回程度）</p> <p>○第2回教職員合同研修会（中高連携会議も含む）</p> <p>○第2回小中一貫教育連絡協議会</p>	・研修会にて指導・助言
9月	<p>○9/1 第7回英語教育強化推進委員会（共和小）</p> <p>◎9/3「英語教育強化地域拠点事業」第1回担当者連絡協議会</p> <p>○9/15 第8回英語教育強化推進委員会（川里中）</p> <p>○小中一貫教育推進校長会（月1回程度）</p> <p>○「インタビュー調査」「音読・筆記調査」（小・中）</p> <p>◎第3回川里中学校区英語教育強化地域拠点事業研修会（講演会）兼第9回英語教育強化推進委員会</p>	・連絡協議会にて指導・助言
10月	<p>○10/6 第10回英語教育強化推進委員会（屈巢小）</p> <p>◎10/8 第2回授業研究会（屈巢小）</p> <p>○10/20 第11回英語教育強化推進委員会（広田小）</p> <p>○小中一貫教育推進校長会（月1回程度）</p> <p>○他地域の視察</p> <p>◎先進校視察（10月～12月の一日）</p> <p>◎10/23 第3回授業研究会（広田小）</p> <p>◎外国語活動指導者養成研修会（中央研修）</p>	・研修会にて指導・助言
11月	<p>○11/4 第12回英語教育強化推進委員会（共和小）</p> <p>○11/17 第13回英語教育強化推進委員会（川里中）</p> <p>○小中一貫教育推進校長会（月1回程度）</p> <p>○第3回小中一貫教育連絡協議会</p> <p>○第2回3小学校6年生合同学習会</p> <p>◎第3回教職員合同研修会</p>	
12月	<p>○12/1 第14回英語教育強化推進委員会（屈巢小）</p> <p>○12/15 第15回英語教育強化推進委員会（共和小）</p> <p>○小中一貫教育推進校長会（月1回程度）</p> <p>○第2回中高連携会議</p>	・会議での指導・助言
1月	<p>○1/20 第16回英語教育強化推進委員会（屈巢小）</p> <p>◎1/21 英語教育強化地域拠点事業全国連絡協議会（文部科学省）</p> <p>○小中一貫教育推進校長会（月1回程度）</p> <p>○第4回小中一貫教育連絡協議会</p> <p>○第3回3小学校6年生合同学習会</p> <p>◎1/28 第4回授業研究会（屈巢小）</p> <p>◎第4回教職員合同研修会</p>	・授業参観・研究協議

2月	○2/2 英語教育強化地域拠点事業第2回担当者連絡協議会 (ブリランテ武蔵野) ○2/9 第17回英語教育強化推進委員会(川里中) ○2/17 第5回授業研究会 兼第18回英語教育強化推進委員会(川里中) ○小中一貫教育推進校長会(月1回程度) ○第5回小中一貫教育連絡協議会	・次年度へ向けての指導・助言
3月	○3/1 第19回英語教育強化推進委員会(共和小) ○小中一貫教育推進校長会(月1回程度) ○3/22 第20回英語教育強化推進委員会(広田小)	
【その他の取組】※あれば記入		

平成28年1月15日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 埼玉県教育委員会

所 在 地 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

代表者職氏名 教育長 関根 郁夫

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

平成27年6月24日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名

ふりがな	さいたまけんりつみやしろこうとうがっこう	ふりがな	にしうら だいじろう
学校名	埼玉県立宮代高等学校	校長名	西浦 大治郎
ふりがな	みやしろちょうりつもんまちゅうがっこう	ふりがな	こじま ひさかず
学校名	宮代町立百間中学校	校長名	小島 久和
ふりがな	みやしろちょうりつひがししょうがっこう	ふりがな	しらいし かおる
学校名	宮代町立東小学校	校長名	白石 薫
ふりがな	みやしろちょうりつかさはらしょうがっこう	ふりがな	おおつか たけし
学校名	宮代町立笠原小学校	校長名	大塚 健嗣

3. 研究内容（県の取組） ※ 各強化地域拠点の取組は「別紙」を添付

(1) 研究開発課題

小学校で英語教育が早期化・教科化された場合の英語教育の在り方の検証

【課題①】教育課程の研究開発

【課題②】指導と評価の研究及び指導体制の整備

【課題③】新たな指導用教材及び研修用資料の整備

(2) 研究の概要

①教育課程の研究開発

- ・ 小学校中学年で活動型（週 1 コマ）、高学年で教科型（週 3 コマ）の英語教育を実施するための教育課程を編成
- ・ 小学校での成果を踏まえ、より高度な内容を実施するための中学校の教育課程の編成

②指導と評価の研究及び指導体制の整備

- ・ 小・中・高等学校を通じた系統的な学習到達目標の設定
- ・ 学習到達目標を達成するための効果的な指導と適切な評価方法に関する研究
- ・ 専科教員、加配教員、英語教育推進リーダー、ALT等を活用した指導体制の整備及び研修の充実

③新たな指導用教材・研修用資料の整備

- ・ 小学校第3・4学年で使用する「Hi, friends!」を補助する教材、第5・6学年の英語で使用する教材、より高度化を目指す中学校英語授業で使用する補助教材等の研究開発
- ・ 各強化地域拠点の伝統文化・歴史等をテーマとした、郷土に誇りを持ち発信できる教材の作成
- ・ 授業の記録映像を活用した研修用映像資料の作成等、研修用資料の整備

(3) 現状の分析と仮説等 ※ 各強化地域拠点の実施計画書「別紙」に記載

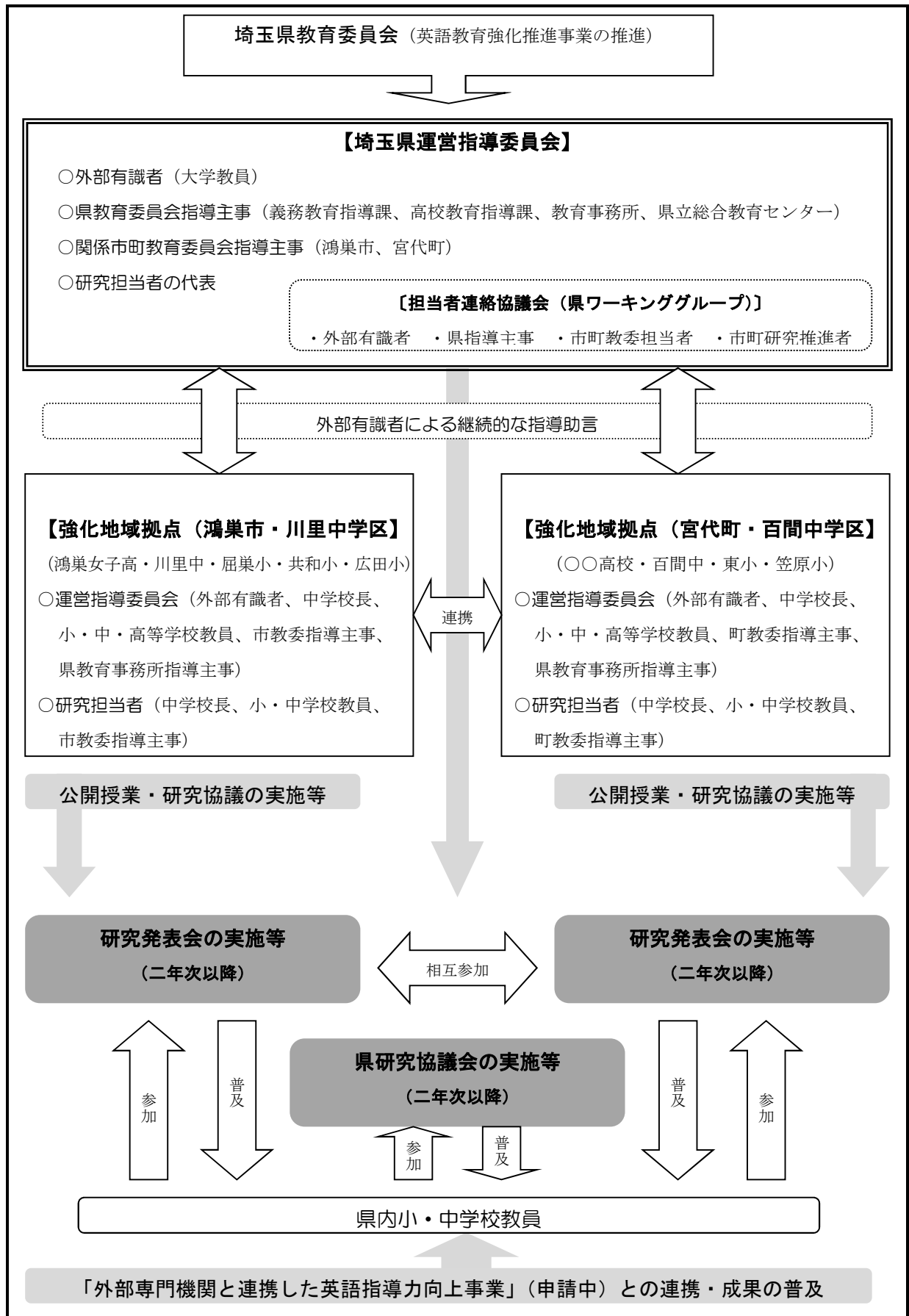
(4) 研究開発型 ※ 各強化地域拠点の実施計画書「別紙」に記載

(5) 研究計画 ※ 各強化地域拠点の実施計画書「別紙」に記載

(6) 評価計画 ※ 各強化地域拠点の実施計画書「別紙」に記載

4. 研究組織（県の取組組織）

(1) 研究組織の概要



(2) 運営指導委員会

①活動計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> 運営指導委員会事務局（義務教育指導課・高校教育指導課）で目的・方針等の確認 第1回運営指導委員会（研究の目的・方針等の確認・共通理解、運営指導委員の委嘱）
5～6月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回担当者連絡協議会 強化地域拠点運営指導委員会 運営指導委員の各強化地域拠点への訪問
8月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回担当者連絡協議会
9～2月	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開及び研究協議会（各強化地域拠点で、二年次以降） 〔二・三年次は中間発表会、四年次は研究成果発表会〕 運営指導委員の各強化地域拠点への訪問
10月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回運営指導委員会（進捗状況の確認、今後の計画について）
12月	<ul style="list-style-type: none"> 第3回担当者連絡協議会
1～2月	<ul style="list-style-type: none"> 第3回運営指導委員会（中間報告、成果物等についての情報交換、次年度の取組方針についての協議等）
3～4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の普及（HP等）

5. 年間事業計画 ※ 「強化地域拠点の取組」は各強化地域拠点の実施計画書に記述

月	強化地域拠点の取組（県の取組）	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究の目的・方針等の確認（事務局内） 	○事務局会議
5月		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○各強化拠点地域の運営指導委員会への参加 ○授業研究会等への参加及び指導助言 	
7月		
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回担当者連絡協議会 ○研究の進捗状況の確認（事務局内） 	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回担当者連絡協議会 ○事務局会議
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回運営指導委員会（9月3日（木）大宮ソニックシティ） <ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗状況の確認等 ○授業公開及び研究協議会〔中間発表会〕（各強化地域拠点） ○運営指導委員の各強化地域拠点への訪問 	○第1回県運営指導委員会
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○運営指導委員の各強化地域拠点への訪問 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○運営指導委員の各強化地域拠点への訪問 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○第3回担当者連絡協議会 ○研究の進捗状況の確認（事務局内） 	<ul style="list-style-type: none"> ○第3回担当者連絡協議会 ○事務局会議
1月		

2月	○第2回運営指導委員会 (2月2日 ホテルブリランテ武蔵野) <ul style="list-style-type: none">・ 中間報告・ 成果物についての情報交換・ 次年度の取組方針についての協議等	○第2回県運営指導委員会
3月	○研究成果の普及 (HP等)	
【その他の取組】※あれば記入		

(別紙1) 【強化地域拠点事業の取組】

1. 事業の実施期間

平成27年6月24日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	さいたまけんりつみやしろこうとうがっこう	ふりがな	にしうら だいじろう
学校名	埼玉県立宮代高等学校	校長名	西浦 大治郎
ふりがな	みやしろちょうりつもんまちゅうがっこう	ふりがな	こじま ひさかず
学校名	宮代町立百間中学校	校長名	小島 久和
ふりがな	みやしろちょうりつひがししょうがっこう	ふりがな	しらいし かおる
学校名	宮代町立東小学校	校長名	白石 薫
ふりがな	みやしろちょうりつかさはらしょうがっこう	ふりがな	おおつか たけし
学校名	宮代町立笠原小学校	校長名	大塚 健嗣

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

小学校で英語教育が早期化・教科化された場合の英語教育の在り方の検証

【課題①】教育課程の研究開発

【課題②】指導と評価の研究及び指導体制の整備

【課題③】新たな指導用教材及び研修用資料の整備

(2) 研究の概要

①教育課程の研究開発

- ・ 小学校中学年で活動型（週1コマ）、高学年で教科型（週3コマ）の英語教育を実施するための教育課程を編成
- ・ 小学校での成果を踏まえ、より高度な内容を実施するための中学校の教育課程の編成

②指導と評価の研究及び指導体制の整備

- ・ 小・中・高等学校を通じた系統的な学習到達目標の設定
- ・ 学習到達目標を達成するための効果的な指導と適切な評価方法に関する研究
- ・ 加配教員、英語教育推進リーダー、ALT等を活用した指導体制の整備及び研修の充実

③新たな指導用教材・研修用資料の整備

- ・ 小学校第3・4学年外国語活動で使用する「Hi, friends!」を補助する教材、第5・6学年の英語科で使用する教材、より高度化を目指す中学校英語授業で使用する補助教材等の研究開発
- ・ 「郷土 宮代」をテーマとした郷土に誇りを持ち発信できる教材の作成
- ・ 授業の記録映像を活用した研修の実施、研修用映像資料の作成等、研修用資料の整備

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

ア 現状の分析

百間中学校区（百間中・東小・笠原小）は、平成24年度から2年間、埼玉県教育委員会委嘱「小中一貫教育推進モデル事業」の指定を受け研究に取り組んだ。

その結果、「中1ギャップ」の解消、学力向上、豊かな心の育成等の成果があった。また、小中連携及び小小連携の強化と研究推進体制の整備が推進された。更に、本地域では小学校中学年から既に外国語活動に取り組んでおり、小中学校を通じた英語教育を推進するための環境が整っている。

平成26年度は本事業の指定を受け、教育課程・指導と評価・教材の開発に取り組んだ。後半から高学年において教科型の授業を開始し、読むこと、書くことを取り入れた授業に取り組んだ。併せて、教科型の授業で使用する教材の開発、指導・評価技術に関する教員研修や担当者の会議であるワーキンググループ等を行い、研究開発を推進した。

現状では、当面の教材作成やそれに係る指導・評価の方法に関する研修に重点が置かれがちであるため、中長期的な展望に立った対応が課題である。日常的な取組に加え、長期休業中等を活用した集中的な取組により改善を図っていく。

イ 研究の目的

小中一貫教育の研究成果を生かし、小学校で英語教育が早期化・教科化された場合の教育課程の編成と実践を行い実証的資料の収集を行うとともに、指導と評価の研究、指導体制の整備、新たな指導用教材・研修用資料の整備を推進し、次期学習指導要領改訂にも資することを目的とする。

②研究仮説

ア 研究仮説

小学校第3学年から中学校第3学年まで一貫した英語教育の教育課程を開発し、適切な実施に係る指導と評価や指導体制の整備、指導用教材・研修資料に関する実践研究に取り組めば、小学校で英語教育が早期化・教科化された場合の英語教育の在り方の検証のための実証的資料を得ることができる。

イ 具体的な手立てと期待される成果

【課題① 教育課程の研究開発】に関して

(ア) 小学校の教育課程の編成

〔手立て〕・ 中学年では、活動型（週1コマ）を実施する。当該学年の総合的な学習の時間を年間35時間削減する。

・ 高学年では、教科型（週3コマ）を実施する。当該学年の外国語活動、総合的な学習の時間をそれぞれ年間35時間削減する。

（※ 週1コマの、モジュール授業についても検討する。）

・ 指導内容については、各学年、英語を使ったコミュニケーションの楽しさを味わわせる体験を基本とし、中学年では英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと、高学年では段階的に文字を取り扱い、運用能力の向上及び基本

的な表現の定着を図りながら、コミュニケーション能力の素地を養うものとする。

- 〔成 果〕
- ・ 適切な教育課程編成の基準に関する実証的資料を得ることができる。
 - ・ 英語の音声や基本的な表現の定着、運用能力の向上が図られ、中学校での英語教育への接続が円滑になる。

(4) 中学校の教育課程の編成（現行の教育課程を基準として）

- 〔手立て〕
- ・ 小学校での取組や児童の実態を把握し、小学校段階で、音声・文字ともに基本的な表現の定着と英語運用能力が身に付いていることを前提に、より高度な内容を実施する教育課程を編成する。

- 〔成 果〕
- ・ 適切な教育課程編成の基準に関する実証的資料を得ることができる。
 - ・ 生徒の英語運用能力の向上が図られ、高等学校以上での英語教育の内容の高度化が図られる。

【課題② 指導と評価の研究及び指導体制の整備】 に関して

(7) 系統的な学習到達目標の設定

- 〔手立て〕
- ・ 小・中・高等学校及び児童生徒の実態を把握し、系統的な学習到達目標を設定する。

- ・ 小学校での英語教育の早期化・教科化に応じ、中・高等学校においては、より高度な学習到達目標を設定する。
- ・ 児童生徒の実態を把握し、設定した学習到達目標の妥当性、系統性、連続性等を検証し、改善を図る。

- 〔成 果〕
- ・ 学習到達目標のモデルを提示し、その活用の効果に関する実証的資料を得ることができる。

- ・ 学習到達目標を明確にすることで、系統的な指導が着実に実施できる。

(4) 学習到達目標を達成するための効果的な指導と評価の在り方の研究

〔手立て〕（小学校中学年）

- ・ 音声によるコミュニケーション活動を中心に、音声に慣れ親しませる。また、現在の高学年における外国語活動を基本として、児童の発達の段階に合わせた活動を工夫する。
- ・ 児童の身近な話題や場面を取り上げて指導する。
- ・ 児童のコミュニケーション活動の様子を観察・分析し、児童の伸びやがんばりを具体的にとらえ、形成的評価として活用しながら、学習到達目標の達成度を把握する。

（小学校高学年）

- ・ 第5学年当初から段階的に文字を導入し、第6学年末に向けて「読むこと」「書くこと」の活動を計画的に位置付ける。
- ・ 「読むこと」「書くこと」に対する意欲の向上や、文字を用いたコミュニケーションの楽しさを体験できる指導の研究に取り組む。
- ・ 学習到達目標に正対したコミュニケーション活動を設定し、児童の身近な話題を取上げ、言語の働き・使用場面を意識して指導する。

- ・ 児童のコミュニケーション活動の状況観察や発表・作品等の分析等の結果を形成的評価として活用し、児童の学習到達目標の達成を支援する。
- ・ 評価は、中学年における評価と同様の取組に加え、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の英語運用能力を把握する調査等を活用する。

(中学校)

- ・ 「英語の授業は英語で行うこと」を基本方針として、教員・生徒の授業における英語使用率を年次ごとに目標を設定して推進する。
- ・ スピーチ等の活動を継続的に設定し、繰り返し活用させる中で、言語材料の定着と英語運用能力を向上させる。
- ・ パフォーマンステスト（スピーチ、英語を用いた制作等）の研究に取り組み、生徒の学習到達目標の達成度を把握する。

(高等学校)

- ・ 中学校の実態を踏まえ、より高度な学習到達目標を設定する。
- ・ スピーチ、ディスカッション等の言語活動の実施回数を増加する。

- [成果]
- ・ 小・中・高等学校を通して、より高度な英語教育を実施する際の指導方法と評価方法のモデルを提示することができる。
 - ・ 教員・児童生徒等が各自の学習到達状況を把握しながらコミュニケーション能力を着実に向上することができる。

(ウ) 指導体制の整備・研修の充実

- [手立て]
- ・ 小学校において、加配教員、英語教育推進リーダー、ALT等を活用して、児童生徒への指導を充実させる。
 - ・ 校内研修組織を充実させ、指導方法・評価方法・教材の共有等を行う。
 - ・ 英語教育推進リーダー養成研修修了教員やALT、外部人材等を活用した教員研修会を実施する。

- [成果]
- ・ 適切な指導体制や研修等の基準に関する実証的資料を得ることができる。
 - ・ 教員の指導力が向上する。

【課題③ 新たな指導用教材及び研修用資料の整備】に関して

(ア) 指導用教材の整備

- [手立て]
- ・ 小学校中学年では、基本教材である「Hi, friends!」を補助する、児童の発達の段階に応じた教材を整備する。
 - ・ 小学校高学年では、先行研究・実践を参考に、強化地域拠点の実態に合わせた教材を整備する。二年次以降は、文部科学省が作成する教材も活用し、その有用性に関する調査研究を行う。
 - ・ 中学校では、小学校での成果を踏まえ、より高度で充実した内容について指導するための補助教材等の研究開発に取り組む。
 - ・ 小学校3学年から中学校第3学年まで、「郷土の偉人・英語学者 島村盛助」や「どんぐりピアノ」など町に残るエピソード等をテーマとした教材を作成する。「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の活動に対

応できるよう計画する。

- 〔成 果〕 ・ 次期学習指導要領改訂の際の教材に関する実証的資料を提供できる。
 ・ 小学校の活動型・教科型の英語教育、中学校の英語の授業が、より高度な内容を伴って継続的に実施できる。

(4) 研修用資料の整備

- 〔手立て〕 ・ 授業を映像収録し、研修用資料として活用する。
 ・ 効果的な指導実践を、研修用資料として整理し、教員研修等で活用する。
 〔成 果〕 ・ 小学校で英語教育が早期化・教科化され、中学校英語教育の高度化に対応した適切な研修資料に関する実証的資料が得られる。
 ・ 教員が客観的に授業を観察・分析できるようになり、授業力が向上する。

【その他 小学校で早期化・教科化され、より高度な内容の英語教育を受けた児童生徒の英語運用能力等の向上に関して】

- 〔手立て〕 ・ 「③イ 評価方法・資料」の内、児童生徒に関する資料を用いて、平成26年度の中学校第3学年の生徒の結果と平成29年度の中学校第3学年の生徒の結果を比較・分析する。

- 〔成 果〕 ・ 小学校で早期化・教科化され、より高度な内容の英語教育を受けた児童生徒と現行学習指導要領で英語教育を受けた児童生徒の英語運用能力等の変容に関する実証的資料を得ることができる。

③研究成果の評価方法

ア 評価の実施者 ※「4. 研究組織」参照

- (ア) 「英語教育強化推進委員会」(研究評価の実施主体)
 (イ) 「宮代町小中一貫教育推進委員会」(「英語教育強化推進委員会」の研究評価結果について、協議し、必要に応じて研究に関する指導助言を行う。)

※ 現在ある、小中一貫教育推進委員会を生かす。

イ 評価方法・資料

各研究課題に対して、次に示す資料を分析し、評価する。

【課題① 教育課程の研究開発】に関して

- ・ 小学校教育課程表・授業実施実績表
- ・ 年間指導計画(小・中学校)
- ・ アンケート等意識調査(対象:教職員、保護者)

【課題② 指導と評価の研究及び指導体制の整備】に関して

- ・ 学習到達目標一覧表(小・中・高等学校)
- ・ アンケート等意識調査(対象:児童生徒、教職員)
- ・ 埼玉県英語教育研究会作成の調査等
- ・ パフォーマンステスト(「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」)
- ・ 映像による授業分析
- ・ 児童生徒の発表や学習成果物
- ・ 研修の実施回数・内容・参加者数

【課題③ 新たな指導用教材及び研修用資料の整備】に関して

- ・ アンケート等意識調査（対象：児童生徒、教職員）
- ・ 学校・町教委で収集した指導用教材等
- ・ 研修で使用した映像資料等

(4) 研究開発型 ※平成27年度新規採択件については、平成26年度は斜線を引くこと。

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校	第3学年1コマ	第3学年1コマ	第3学年1コマ	第3学年1コマ
外国語活動型	第4学年1コマ	第4学年1コマ	第4学年1コマ	第4学年1コマ
②小学校	第5学年2コマ	第5学年2コマ	第5学年3コマ	第5学年3コマ
教科型	第6学年2コマ	第6学年2コマ	第6学年3コマ	第6学年3コマ

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第四年次、校種別

一年次

①全体の取組

- ア 研究組織の発足と研究方針、取組内容等に関する共通理解
- イ 研修会の実施（10回程度）
- ウ 先進地区視察研修（2名）その成果の普及
- エ 加配教員の英語教育推進リーダー研修への派遣と研修での活用
- オ 研究評価に係る諸調査の実施・分析
- カ 一年次の研究成果の評価と二年次の研究計画への反映（研究計画の修正）
- キ 研究発表会の実施

②校種別の取組

ア 小学校

【課題①】に関する取組

- ・ 中学年で週1コマの活動型の授業を実施
- ・ 高学年で週2コマの教科型の授業を実施

【課題②】に関する取組

- ・ 学習到達目標設定のための研究・試案の作成
- ・ 学習到達目標の達成状況を把握するための評価方法の研究
（小学校における「CAN-DOリスト」・パフォーマンステスト・行動観察・等の研究）
- ・ 「Hi, friends!」の中学年で指導方法に関する研究
- ・ 中学年で音声によるコミュニケーション活動、高学年での「読むこと」「書くこと」を含むコミュニケーション活動の学習活動計画作成と指導方法の研究
- ・ 活動型、教科型それぞれにおける適切な評価方法の研究

【課題③】に関する取組

- ・ 中学年で「Hi, friends!」を補助する指導用教材、高学年の教科型用の指導用教材の資料収集と研究開発
- ・ 「郷土の偉人・英語学者 島村盛助」や「どんぐりピアノ」など町に残るエピソード等をテーマとする指導用教材の研究開発

イ 中学校

【課題①】に関する取組

- ・ より高度化した英語の教育課程の研究・編成
- ・ 高等学校の英語授業の参観・研究協議

【課題②】に関する取組

- ・ 「CAN-DOリスト」の形式での学習到達目標設定のための研究・試案の作成
- ・ 学習到達目標の達成状況を把握するための評価方法（パフォーマンステスト等）の研究
- ・ スピーチ、プレゼンテーション等の継続的な実施
- ・ 学習到達目標との整合性のある評価規準の整理
- ・ 教員の1単位時間における英語使用率を75%以上、生徒が英語を使用して活動する時間が1単位時間に占める割合を50%以上に設定

【課題③】に関する取組

- ・ スピーチ、プレゼンテーション等より高度な内容を継続的に実施するための指導用教材の研究開発
- ・ 「郷土 宮代」をテーマとする指導用教材の研究開発

ウ 高等学校

- ・ 中学校の英語授業の参観・研究協議
- ・ 中学校の教育課程編成への参画

二年次

◎ 一年次の研究成果を踏まえ、修正・改善を加えた取組を行う。

①全体の取組

ア 研究組織の改善と研究方針、取組内容等に関する共通理解

イ～エ 一年次に同じ

オ 研究評価に係る諸調査の実施・分析

※ 一年次の児童生徒の結果と二年次の当該学年の児童生徒の結果を比較・分析する。

【例】H26年度の中3生徒の数値とH27年度の中3生徒の数値を比較・分析

カ 二年次の研究成果の評価と三年次の研究計画への反映（研究計画の修正）

キ 研究発表会の実施

②校種別の取組

ア 小学校

【課題①】に関する取組

- ・ 中学年で週1コマの活動型の授業を実施
- ・ 高学年で週2コマの教科型の授業を実施

【課題②】に関する取組 一年次に同じ

【課題③】に関する取組 一年次の取組に加えて次に取り組む。

- ・ 高学年における文部科学省が作成する教材の実践的検証

イ 中学校

【課題①】に関する取組 一年次に同じ

【課題②】に関する取組 一年次の取組に加えて次に取り組む。

- ・ 「CAN-DOリスト」の形式での学習到達目標設定と授業改善の研究

【課題③】に関する取組 一年次に同じ

- ウ 高等学校 一年次の取組に加えて次に取り組む。
- ・ 中学校の実態を踏まえたより高度な学習到達目標の設定
 - ・ スピーチ、ディスカッション等の言語活動の実施回数の増加

三年次

- ◎ 二年次の研究成果を踏まえ、修正・改善を加えた取組を行う。
- ◎ 四年次の研究のまとめに向け、取組の検証に重点をおいた取組を行う。
- ①全体の取組 二年次の取組に加えて次に取り組む。
 - オ 研究評価に係る諸調査の実施・分析
 - ※ 児童生徒等の変容の要因の特定に関する研究

②校種別の取組

ア 小学校

【課題①】に関する取組

- ・ 中学年で週1コマの活動型の授業を実施
- ・ 高学年で週3コマの教科型の授業を実施

【課題②③】に関する取組 二年次に同じ

イ 中学校 二年次の取組に加えて次に取り組む。

【課題②】に関する取組

- ・ 「CAN-DOリスト」の形式での学習到達目標設定に対応したパフォーマンステスト等の実施計画の作成

ウ 高等学校 二年次の取組に加えて次に取り組む。

【課題③】に関する取組

- ・ 「CAN-DOリスト」の改善

四年次

- ◎ 三年次の研究成果を踏まえ、修正・改善を加えた取組を行う。
- ◎ 三年次の検証結果の妥当性の確認を行う。
- ◎ 四年間の研究のまとめを行い、研究成果の普及に取り組む。

①全体の取組 三年次の取組に加えて次に取り組む。

オ 研究評価に係る諸調査の実施・分析

- ※ H26年度中学校第2・3学年生徒の結果とH29年度中学校第2・3学年の結果を重点的に比較・分析する。

②校種別の取組

ア 小学校

【課題①】に関する取組 三年次に同じ

【課題②③】に関する取組 三年次に同じ

イ 中学校 三年次に同じ

ウ 高等学校 三年次に同じ

○平成27年度の進捗状況・課題

- ・ 中学年で週1コマの活動型の授業を実施
- ・ 高学年で週2コマの教科型の授業を実施
- ・ 学習到達目標設定のための研究・試案の作成
- ・ 学習到達目標の達成状況を把握するための評価方法の研究
(小学校、中学校「CAN-DOリスト」)
- ・ 「Hi, friends!」の中学年で指導方法に関する研究
- ・ 中学年で音声によるコミュニケーション活動、高学年での「読むこと」「書くこと」を含むコミュニケーション活動の学習活動計画作成と指導方法の研究
- ・ 活動型、教科型それぞれにおける適切な評価方法の研究
- ・ 中学年で「Hi, friends!」を補助する指導用教材、高学年の教科型用の指導用教材の資料収集と研究開発
- ・ より高度化した英語の教育課程の研究・編成
- ・ 学習到達目標の達成状況を把握するための評価方法（パフォーマンステスト等）の研究
- ・ スピーチ、プレゼンテーション等の継続的な実施
- ・ 学習到達目標との整合性のある評価規準の整理
- ・ 教員の1単位時間における英語使用率を75%以上、生徒が英語を使用して活動する時間が1単位時間に占める割合を50%以上

今後の課題

- ・ スピーチ、プレゼンテーション等より高度な内容を継続的に実施するための指導用教材の研究開発
- ・ 「郷土 宮代」「郷土の偉人・英語学者 島村盛助」や「どんぐりピアノ」など町に残るエピソード等をテーマとする指導用教材の研究開発
- ・ 高等学校の英語授業の参観・研究協議

(6) 評価計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第四年次、校種別

◎資料の収集・分析は、年間を通じて随時実施する。

◎3学期に「英語教育強化推進ワーキンググループ会議」で評価結果をまとめ、次年度の研究開発の方向性を確認・共通理解する。

一年次

ア 小学校

【課題①】に関して

- ・ 小学校教育課程・授業実施結果の分析
- ・ 年間指導計画の分析
- ・ アンケート等意識調査（対象：教職員、保護者 実施回数：2回）

【課題②】に関して

- ・ アンケート等意識調査（対象：児童生徒、教職員 実施回数：2回）
- ・ 映像による授業分析
- ・ 児童の発表や学習成果物の分析
- ・ 研修の実施回数・内容・参加者数の分析

【課題③】に関して

- ・ アンケート等意識調査（対象：児童生徒、教職員 実施回数：2回）
- ・ 学校・町教委で収集した指導用教材等の質・量の分析
- ・ 研修で使用した映像資料等の質・量の分析

イ 中学校

【課題①】に関して

- ・ 年間指導計画の分析
- ・ アンケート等意識調査（対象：教職員、保護者 実施回数：1回）

【課題② 指導と評価の研究及び指導体制の整備】に関して

- ・ 学習到達目標一覧表と目標到達度の分析
- ・ アンケート等意識調査（対象：教職員、保護者 実施回数：1回）
- ・ 埼玉県英語教育研究会作成の調査等の結果分析
- ・ パフォーマンステスト（「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）の結果分析
- ・ 映像による授業分析
- ・ 生徒の発表や学習成果物の分析
- ・ 研修の実施回数・内容・参加者数の分析

【課題③】に関して

- ・ アンケート等意識調査（対象：生徒、教職員 実施回数：1回）
- ・ 学校・町教委で収集した指導用教材等の質・量の分析
- ・ 研修で使用した映像資料等の質・量の分析

ウ 高等学校 ・ 諸会議、公開授業等への参加状況により評価する。

二年次

ア 小学校

【課題①】に関して 一年次に同じ

【課題②】に関して 一年次の取組に加え次に取り組む。

- ・ 学習到達目標一覧表と目標到達度の分析
- ・ 高学年におけるパフォーマンステスト（「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）の結果分析

【課題③】に関して 一年次の取組に加えて次に取り組む。

- ・ 高学年における文部科学省が作成する教材の実践的検証

イ 中学校 一年次に同じ

ウ 高等学校 一年次に同じ

三年次

◎四年次の研究のまとめに向け、研究実践と成果の因果関係の特定に重点を置く。

ア 小学校 二年次に同じ

イ 中学校 二年次に同じ

ウ 高等学校 二年次に同じ

四年次

◎三年次の検証結果の妥当性の確認に重点を置く。

◎平成26年度の中学校第2・3学年の生徒の結果と平成29年度の中学校第2・3学年の生徒の結果を比較・分析する。

ア 小学校 三年次に同じ

イ 中学校 三年次に同じ

ウ 高等学校 三年次に同じ

○平成27年度の進捗状況・課題

- ・ 小学校教育課程・授業実施結果の分析、年間指導計画の分析実施
- ・ 教職員アンケート等意識調査実施
- ・ 児童生徒の発表や学習成果物の分析検討
- ・ 研修の実施回数・内容・参加者数の分析検討
- ・ 学校・町教委で収集した指導用教材等の質・量の分析検討
- ・ 研修で使用した映像資料等の質・量の分析検討
- ・ 学習到達目標一覧表と目標到達度の分析検討
- ・ 埼玉県英語教育研究会作成の調査等の結果分析2月実施予定
- ・ パフォーマンステスト(「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」)の結果分析実施予定

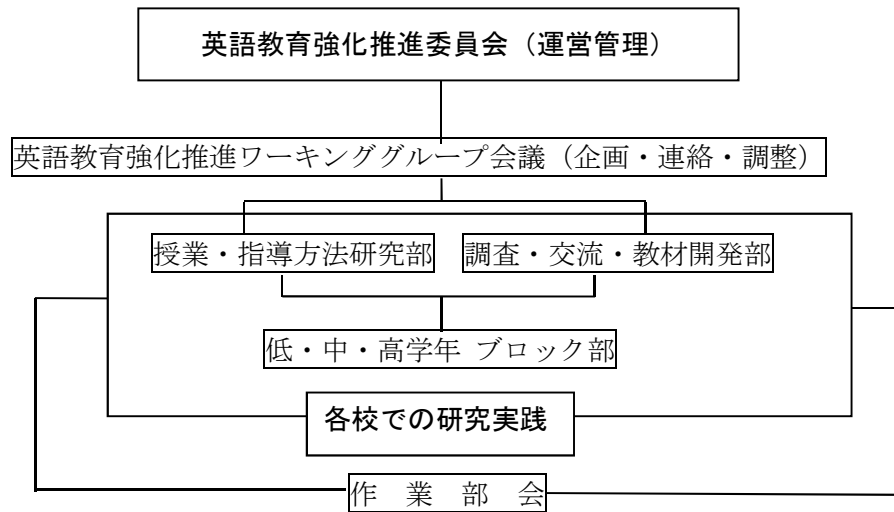
今後の課題

- ・ 保護者への意識調査の実施と児童生徒の変容に関する記録の分析とそれを基にした指導計画の見直し、指導用教材の検討。
- ・ 教職員の評価の適切な実施方法について検討。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要

研究組織図



○「英語教育強化推進委員会」

- ・ 研究推進に関する取組の運営管理を行う。

(構成員)

3校校長 各小学校教務主任 小学校英語教育推進リーダー
 各校英語教育強化推進コーディネーター 高等学校関係者 大学教員
 町教育委員会指導主事 県教育事務所指導主事

○「英語教育強化推進ワーキンググループ会議」（三校校長・リーダー・コーディネーター・事務局で組織する）

- ・ 研究開発にあたっての企画・連絡・調整を行う。

○「各校英語教育強化推進コーディネーター」

- ・ 「英語教育強化推進委員会」の内容の伝達。
- ・ 各校での研究実践の中心となる。

○「各研究部」

- ・ 各小学校に設置する。
- ・ 教職員が必ず部会に入り、研究実践を行う。

○「作業部会」

- ・ 三校の代表（校長・リーダー・コーディネーター）が、今後の研究開発の方向性・取組の具体内容を検討する。

(2) 運営指導委員会

①活動計画

- 英語教育強化推進委員会において研究開発に関する指導助言にあたる
 - ・ 年間3回程度実施予定
 - ・ 研修の企画・運営、研修用資料の作成

- 「英語教育強化推進ワーキンググループ会議」
(三校校長・リーダー・コーディネーター・事務局で組織する)
 - ・ 研究開発にあたっての企画・連絡・調整を行う。

- この委員会は下に以下の2つの部会をもつ
 - ①授業・指導方法研究部 ……
 - ・ 9年間を見通した課題となる教育課程の作成
 - ・ 学習到達度目標・評価規準の設定
 - ・ 外国語活動型、教科型の授業の開発

 - ②調査・交流・教材開発部 ……
 - ・ 諸調査の作成・統計・検証
 - ・ 研究評価の資料作成
 - ・ 体験、交流会等の運営
 - ・ 教材、資料の研究開発

- 2つの部会の方針を踏まえ、「低学年・中学年・高学年ブロック」で具体的に取り組む。
- 「作業部会」
 - ・ 三校の代表（校長・リーダー・コーディネーター）が、今後の研究開発の方向性・取組の具体内容を検討する。

- ※宮代町では、小学校1年生から英語活動に取り組んでいる。低学年における取組についても研究開発に取り組む

- 平成27年度の進捗状況・課題

現在までに、英語教育強化推進委員会を3回開催した。内容は研究の方向性について東京学芸大学名誉教授に指導助言をいただいた。

また、英語教育強化推進ワーキンググループ会議も3回開催し、文部科学省からの連絡事項や研究の進捗状況を確認した。

月に1回の作業部会では、実際に指導していく内容、教材開発について話し合い、教科としての指導内容の作成を進めた。

今後の課題は、検証内容の検討及び現段階の成果等の分析を行い、それらをどのように次の研究、検証につなげていくかということである。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○4月15日 第1回ワーキンググループ会議（役場） <ul style="list-style-type: none"> ・組織、事業計画等確認 ○4月24日 作業部会（百間中） <ul style="list-style-type: none"> ・組織、事業計画等作成 ○第1回三校合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の取組の確認、授業展開等の共通理解、理論研修、実技研修 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観 ・教育課程編成の検討 ・教材作成 ・調査内容の検討 ・進捗状況の確認
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回三校合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> 理論、実技研修 ○5月22日 作業部会（百間中） <ul style="list-style-type: none"> ・今後の研究開発の取組確認、教育課程編成の検討、調査内容の検討、教材作成 等 ○百間中学校授業参観・研究協議（ビデオによる授業分析） 	<p>第1回英語教育強化進 委員会（5月25日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況と今後の取組 確認
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○6月3日 東小学校授業研究会 ○6月17日 埼玉県教育委員会教育長訪問（東小） <ul style="list-style-type: none"> 研究概要説明 ○6月19日 第3回三校合同研修会（笠原小） ○6月25日 第2回ワーキンググループ会議（役場） <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の確認、夏季研修会計画 ○6月26日 第4回三校合同研修会（東小） ○意識・実態調査（児童生徒、教職員、保護者）の実施 ○6月30日 鹿児島県伊佐市からの視察 <ul style="list-style-type: none"> 三校授業参観、研究内容説明 ○6月30日 作業部会（百間中） <ul style="list-style-type: none"> ・今後の研究開発の取組確認、教育課程編成の検討、調査内容の検討、教材作成 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観 ・教育課程編成の検討 ・教材作成 ・調査内容の検討 ・進捗状況の確認
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○7月8日 笠原小学校授業研究会 ○7月9日 百間中学校授業研究会 ○7月30日 第5回三校合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・理論研修、実技研修 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観 ・教育課程編成の検討 ・教材作成 ・調査内容の検討 ・進捗状況の確認 ・夏季休業中の研修計画
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○8月3日 作業部会（百間中） <ul style="list-style-type: none"> ・今後の研究開発の取組確認、教育課程編成の検討、調査内容の検討、教材作成 等 ○8月5日 第5回三校合同研修会 町進修館にて <ul style="list-style-type: none"> ・理論研修、実技研修、 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成の検討 ・指導方の検討 ・2学期の計画 ・進捗状況の確認

	<p>○8月24日 第3回ワーキンググループ会議（役場） ・進捗状況の確認、2学期の研修計画、先進校視察計画 等</p> <p>○8月27日 第4回教職員合同研修会 宮代町外国語活動・英語教育研修会参加（町立図書館）</p>	
9月	<p>○9月3日 英語教育強化地域拠点事業第1回担当者連絡協議会（大宮ソニックシティ）</p> <p>○9月17日 英語教育強化地域拠点事業に係る学校訪問 授業公開 県教育局視察及び情報交換</p>	<p>連絡協議会 指導者 ・進捗状況と今後の取組確認</p> <p>第2回英語教育強化進委員会（9月24日 役場）</p>
10月	<p>○10月9日 交流活動「島村盛助」を顕彰する英語活動発表会（東小）</p> <p>○10月15日 作業部会（百間中） ・今後の研究開発の取組確認、教育課程編成の検討、調査内容の検討、教材作成 等</p> <p>○10月20日 第4回ワーキンググループ会議（役場） ・進捗状況・今後の研修内容確認 等</p> <p>○10月22日 第6回三校合同研修会（笠原小） （授業研究会・研究協議実施）</p> <p>○10月23日 先進校視察研修 鴻巣市立広田小学校</p> <p>○意識・実態調査（児童生徒、教職員、保護者）の実施</p>	<p>・授業参観 ・教育課程編成の検討 ・教材作成 ・調査内容の検討 ・進捗状況の確認</p>
11月	<p>○11月11日 笠原小学校研究発表会（宮代町教育委員会委嘱）</p> <p>○11月17日 第7回三校合同研修会（授業研究会・研究協議実施）（東小）</p> <p>○11月24日 作業部会（百間中） ・今後の研修の取組確認、教育課程編成の検討、調査内容の検討、教材作成 等</p>	<p>第3回英語教育強化進委員会（11月9日 役場） ・進捗状況と今後の取組確認</p>
12月	<p>○作業部会 ・今後の研究開発の取組確認、教育課程編成の検討、調査内容の検討、教材作成 等</p> <p>○第9回三校合同研修会 ・理論研修、実技研修 等</p>	<p>・教育課程編成の検討 ・教材作成</p>
1月	<p>○作業部会 ・今後の研究開発の取組確認、教育課程編成の検討、調査内容の検討、教材作成 等</p>	<p>第4回英語教育強化進委員会 ・進捗状況と今後の取組確認</p>

	○第10回三校合同研修会（授業研究会・研究協議実施） 指導者 大学教授（予定）	
2月	○2月2日 英語教育強化地域拠点事業第2回担当者連絡協議会（ブリランテ武蔵野） ○作業部会 ・今後の研究開発の取組確認、教育課程編成の検討、調査内容の検討、教材作成 等 ○第11回三校合同研修会 ・本年度の成果の検証、次年度計画への協議 ・理論研修、実技研修 等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観 ・教育課程編成の検討 ・教材作成 ・調査内容の分析
3月	○作業部会 ・次年度の研究開発の取組確認、教育課程編成の検討、調査内容の検討、教材作成 等 ○第6回ワーキンググループ会議 ・進捗状況・次年度の研究開発内容確認 等 ○第9回三校合同研修会 ・理論研修、実技研修 等	
<p>【その他の取組】</p> <p>授業参観・研究協議により、宮代町英語教育推進委員会との連携を図り、取組や成果を宮代町全体に普及させる。</p> <p>各校において、低学年の授業づくりについても取り組む。</p>		